

観光振興計画・観光地マスタープラン検討会（第5回：全体骨子たたき台に基づく議論②）

- 第5回検討会では、倶知安町を国際的な観光リゾート地として中長期的に振興していくために、第4回検討会において示した観光地マスタープランの全体骨子たたき台に基づいて、開発誘導の考え方や持続的な観光振興のための観光諸団体の役割分担、観光から住まう人々のQOL上昇の取組について検討を行った。

■ 第5回検討会

○日時：令和元年11月27日（水） 14時～16時

○場所：KUMO RESTAURANT〈SKYE Niseko 1F〉



○参画者：観光関連団体、観光関連事業者

■ 参加者一覧

○検討会メンバー

- ・吉田聡 吉田司法書士事務所
- ・岩佐信 SUPER OKUSAN（Chalet IVY）
- ・釜江良尚 東急リゾートサービス
- ・天沼清貴 （一社）倶知安観光協会〈地域DMO候補法人〉
- ・ラミズ麻衣 （一社）倶知安観光協会〈地域DMO候補法人〉
- ・渡辺淳子 グラウビュンデン

- ・山田洋 North Design 株式会社
- ・大久保実 Japan Premium International
- ・阪井啓司 つばらつばら

○事務局

- ・福家朋裕 倶知安町観光課 観光課長
- ・田中康太 倶知安町観光課 観光係主事
- ・山田雄一 公益財団法人日本交通公社観光政策研究部 部長
- ・守屋邦彦 公益財団法人日本交通公社観光政策研究部 主任研究員
- ・池知貴大 公益財団法人日本交通公社観光政策研究部 研究員
- ・高鍋剛 株式会社都市環境研究所 取締役/主任研究員
- ・大井菜摘 株式会社都市環境研究所 研究員

- ・沼田尚也 倶知安町観光課 観光係長
- ・星加明仁 倶知安町まちづくり新幹線課 まちづくり係長

○オブザーバー

- ・下田伸一 株式会社ニセコリゾート観光協会
- ・東内学爾 （一社）ニセコプロモーションボード

第5回検討会概要・議論要旨

■ 議題

◎ 観光地マスタープランの全体的議論

- ・ニセコエリアの中心であるひらふ地区における、センター機能・空間の意思表示
- ・開発誘導に関する法的な適用可能性の整理
- ・持続的な観光振興のために、スマートリゾートのようなソフト面でのサービス提供における、観光関連諸団体の役割分担と目指す方向性
- ・KPIの設定議論。特に経済波及効果の測定による、地域経済への影響の見せ方

■ 主な意見

○ シンボルゲート関連

- ・シンボルゲートについては第1駐車場ではないのか。
 - ・シンボルゲートを位置付けることはよいが、交通機能であるターミナル機能をどこにするかを詰めて議論しないといけない。オープンスペースやデイリーサービス機能全てを第1駐車場に埋め込むのは無理があるのではないか
 - ・土地の面で難しいのは分かっているが、バスターミナル機能については、ひらふ交差点より倶知安市街地側にあるのが理想。
 - ・バスターミナルは樺山分校周辺というのも考えてはどうか。
 - ・少し先の議論になるが、新幹線や高速道路開通を鑑みると、交通環境の変化も考えられる。リゾート外縁部のFRINGE駐車場も考えなければならない。
- シンボルゲート（センター機能）と駐車場については、観光視点のマスタープランの考え方と交通ターミナル機能のこれまでの検討内容を擦り合わせして、方向付けへ

第5回検討会概要・議論要旨

■ 主な意見

○ 開発誘導関連

※スプロール化の抑制、スプロール化抑制によるベッド数コントロール、スキー場周辺での高密度化の是非が議論となる

- ・スプロール化の抑制を考えると財産権の問題に関係してくる。町の条例を制定しても限界があると思われ、法的アプローチをクリアにしたい。
- ・法的に最も確実なのは、都市計画区域における市街化調整区域の設定。ただし、これには人口などの色々な基準があり、実際にひらふエリアに導入するのは厳しい。その他、非線引き都市計画区域とし、緑化関係の地域地区規制もあり、これはできなくもないが、権利者との十分な合意形成が必要である。条例は地方自治法が根拠になるが、特定の法的後ろ盾がないので弱い。
- ・報道でも出ている上水道の試算を鑑みると、かなりの金額が上水道の整備に必要とのことだが、外資開発のために町民が負担すべきなのか。
- ・上下水道に関する開発者からの（かなりの額の）負担金徴収や地下水保全のルールも必要ではないか。
- ・マスタープランの議論において、ひらふエリアでどの位の宿泊者数を想定するかという人数感が必要。これがまずあることで、シミュレーション的にシンボルゲートの規模感や交通の問題、開発誘導など色々な課題解決が出来るのではないか。キャパシティありきでないと議論が成立しにくいのではないか。

○ 観光諸団体の役割、KPI設定

- ・観光諸団体の役割分担、権限、予算が必要になる。中でもエリマネ団体は、予算や事務方が全くない状態で、これをどうにかするのが急務。
- ・マスタープランで議論している内容のうち、実効性を持たせるにはエリマネ団体への権限付与も必要ではないか。
- ・地域連携DMOのニセコプロモーションボード、地域DMO候補法人の倶知安観光協会、ニセコひらふエリアマネジメントといった組織の棲み分けと整理が必要。お金と人材確保は永遠の課題だが、少しでも改善するには各組織の位置づけをした方が良い。

第5回検討会概要・議論要旨

■ 主な意見

- ・観光協会とニセコひらふエリアマネジメントについては、法人としては分けておきたい。当然ながら、3団体の横の連携は必要。
- ・観光の地域理解促進のためにも、倶知安観光協会のDMO登録のためにもKPIのうち経済波及効果の測定は重要。観光協会より各事業所に経済波及効果把握のためのアンケートの配布を行う。

以上